

理事長の任期を終えて ご報告と御礼

日本臨床細胞学会 前理事長 長村義之

さる3月31日をもちまして理事長任期を満了し、佐々木寛現理事長に引き継ぎを終えました。在任中に役員の皆様や会員の皆様からいただきました、数多くのご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

任期の最終月であった3月11日に東日本大震災が発生し、それにひき続いて福島原発事故が起きました。予想だに出来ないような大規模な災害であり、被災されました多くの方々ならびに関係者の皆さま方に心よりお見舞い申し上げます。学会と致しましても、義援金をはじめとした様々な支援体制の準備を進めているところでございます。

2年という短い期間ではございましたが、皆様のご支援に寄りまして、これまで諸先輩方が手掛けてこられました様々な懸案事項を僅かながらも前に進めることが出来たのではないかと嬉しく思っております。以下に私の任期内に実現しました事項やこれからも継続をお願いしたい事項などを列記させていただきます。

1. 事務局の移転と整備、50周年記念誌発行

2010年9月1日に学会事務局を旧大塚事務所からお茶の水の新事務所に移転しました。この移転に際しましては、佐々木寛現理事長にご尽力いただきました。紙面を借りまして感謝申し上げます。今後も、理事会や各種委員会は基本的に事務局で開催していただくようお願い致します。旧事務所に永年お勤めいただきました田中様や神野瀬様には、そのご労苦をねぎらい、ご尽力に感謝いたします。

50周年記念誌発行業務は当初、大塚事務所にて行う予定でしたが、予期せぬ事態により、すべてを新事務所にて遂行することと致しました。佐藤之俊理事担当の元で予定通り進めていただいております。

2. 公益法人化について－学会機構等検討委員会

学会の公益性に鑑みて、土屋眞一委員長の元で慎重に審議を重ね、公益法人化への移行を決定致しました。その前段階として、NPO法人の体制を存続しつつ、4月より一般社団法人化への作業に入ることになりました。今後は検査士の皆様とも話し合いながら評議員選出についても審議を更に進めて行く予定です。

3. 国際学会誘致(2016年横浜開催)－国際交流委員会

昨年5月にEdinburghで開催された国際細胞学会ICCにおきまして、2016年の第19回国際細胞学会(ICC2016)が横浜にて開催されることが決定致しました。誘致に際しましては、行政を始めとして、横浜市やパシフィコ横浜、横浜コンベンションビューローの方々に、強力なご支援をいただきました。また、何にも増して、ICC2016の誘致を機関決定していただき、会員の皆様からのご支援をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

2016年の開催に向けて、ICC2016準備委員会を設置し、青木大輔理事・内藤善哉也理事にその委員長・副委員長をお願いしております。私もIAC(ICC)の役員として、ICC2016 Yokohamaの成功に向けて今後も尽力させていただきたいと考えております。

4. 診療報酬 ー 社会保険委員会

2010年の診療報酬改訂において、病理診断が第13部として独立し、細胞診の項目もこの第13部に入りました。金城満委員長および会員の皆様のご努力により、医師による細胞診断行為に対しての診断料が、初めて収載されることとなりました。しかし、この診断料は細胞診断の一部に対してのみ適応されているのが現状であり、今後は婦人科検体などに関しても充分整理しながら要望して行く必要があります。

また、我が国では液状検体の普及が立ち遅れています。その原因の一つは診療報酬にあると推察されますので、次回の診療報酬改訂時により強く要望することが、液状検体普及のために必須と思われる。

5. 専門医領域の“総合科”への統一

永年議論されてきたことではありますが、専門医の領域を細分化することなく、総合科へと統一することを機関決定していただきました。この統一化は、今後診療報酬を厚労省に要望して行く際にも大切なステップになると信じております。その運用に向けまして、関係各位のご尽力に期待しております。

6. 倫理委員会 利益相反

「学会発表の際には利益相反を明示すること」を決定し、本年の第50回総会から適用することになりました。倫理委員会の宇田川康博委員長はじめとする委員の皆様のご努力により充分審議を尽くし、利益相反委員会を立ち上げていただきました。国内外の学会の在り方を見ましても、今後重要な位置づけになると思われれます。

7. 東日本大震災義援金・復興支援について

学会として、被災された会員と市民の方々への義援金を募ることといたしました。5月の学会の総会でご承認いただき、お役に立ちたいと考えています。

8. 50周年記念事業

来る第50回の秋期大会（土屋眞一会長）において、日本臨床細胞学会50周年記念式典を予定しております。式典では、各支部推薦の貢献賞の表彰および記念誌発行などを企画しております。

以下は、次期執行部へのご提案です。

提案1：学会長を立候補制にする

立候補の表明は、所定のフォーマットに基づき事務局経由で理事長へと提出いただき、その際に学会の特徴(テーマ)や予算規模などをあわせてご提案していただく、という方法は如何でしょうか。(理由：選出理由が明示化できる、その後の作業の進行が円滑に進むなど、現在の問題点がどのように改善するか分かるとベターです)

提案2：細胞診専門医育成の研修内容の整備

専門医認定試験が総合科に統一されたことを踏まえ、細胞診専門医を志す医師会員のために、所定の年度内で研修すべき内容を明示し、年次別の詳細な目標を設ける必要があるのではないのでしょうか。社会的に重い責任を担うことを鑑みまして、是非とも整備をお願いしたいと思います。

以下は、“引き継ぎ事項”です。

1. 上記理事長報告内容の継続性
2. 会員 医師・検査士の協調性を確保する
3. 多分野の会員から構成される学会のメリットを引き続き生かす
4. 医療・社会への啓蒙活動を更に活性化する
5. 学会内での学術活動の活性化

このほかにも御礼とお願いを申しあげる事項は数多くあると存じますが、以上をもちまして私のご報告とさせていただきます。

在任中に会員諸氏からいただきました多くの激励、ご支援に心より感謝申し上げます。

佐々木寛理事長の元、学会が更に大きく飛躍発展しますよう、これからも引き続き尽力させていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。